

久納会計FAXニュース



Kunoh Accounting Office

久納公認会計士事務所

フィリピンに行ってきました

平成26年12月26日

☆ 今年も一年間ありがとうございました。12月28日(日)よりお休みさせていただきます。なお、年始は1月5日(月)より営業いたしますので、何とぞよろしくお願いいたします。

☆ 例年12月のこの時期は政府より来年度の税制大綱が発表され、それを題材にしておりましたが、今年は年末選挙の影響で発表が30日に予定されています。このため、税制改正関係のFAXニュースは来年となりますので、ご了承ください。

少々前になりますが、9月にフィリピンに行ってきました。ほぼ毎年、東南アジアのどこかの国を訪問しているのですが、今年はフィリピンとなりました。フィリピンまでの飛行時間は4時間ですので、アジアの中ではかなり近い国といえます。

フィリピンは約7千の島からなる島国です。人口は今年1億人を越したと推定されており、さらに人工増加が続いています。人口の減少が続く日本を近いうちに追い越すことになるでしょう。人口構成も、完全なピラミッド型です。「富士山型」という方もいました。この意味は「裾野が広い」、つまり年齢層が低いほど人口が多いということです。労働人口が豊富なこともあり、工場も2カ所訪問しましたが、いずれの工場でも人を集めることには困っていませんでした。

GDPは日本円で約30兆円(2013年)、一人当たりGDPは約30万円です

通貨はペソ

フィリピンの通貨はペソ。円安になってし

まったので、現在では1ペソが2.7円くらいになります。物価水準は推測がなかなか難しいのですが、月額給与から考えると日本の5分の1くらいではないかと推測されます。

産業

製造業は余りありません。車も主要な部品を輸入して現地で組立・販売する、いわゆるノックダウン生産を小規模に行っているくらいで、とても国内需要をまかなうだけの生産量はありません。主要な産業はサービス業で、近年ではコールセンター受託などが増えてきています。以前はコールセンターというとインドだったのですが、インドの英語よりフィリピンの英語の方がよいという評価で、最近インドから移すところも多いと聞きました。

失業率は約7%と、他のアジアの国に比べ高くなっています。こうした高い失業率が背景にあるのか、海外への出稼ぎが盛んです。1千万人が海外に出稼ぎに出ているそうで、人口1億人のうち約一割が海外で働いていることとなります。出稼ぎ労働者のフィリピンへの送金額は莫大なもので、GDPの約1割と言われていています。ただ、これは銀行を通して送られている金額であり、地下銀行など統計に表れない送金額を入れるとこの数字の倍はあるという話も聞きました。

フィリピン人はほとんど全員英語ができます。この英語力が出稼ぎや、コールセンターなどの国内産業を支えているように感じました。

賃金関係

一般労働者の賃金水準は15,000ペソから17,000ペソと聞きましたので、日本円で4万

円から4万5千円程度です。事務職では2万ペソということなので、5万4千円ほどになります。

給料は半月に一度払われます。フィリピン人はとにかく貯蓄はしないそうです。お金があればあるだけ使ってしまうため、月に一度の給料ではとても月の後半の生活を保つことが出来ないため、このような制度となっています。中小企業家同友会の友人の会社では、従業員からは週払いにして欲しいという要望まで出たそうですが、さすがに事務負担が大きいため、半月払いにしてもらったそうです。

年間で13ヶ月分支給することが法律で決められており、0.5ヶ月の賞与が年に2回支給されます。また、それ以外の報奨金として3か月に一度米を配るところもありました。

フィリピンと他のアジアの国との違い

これまでベトナム、タイ、中国、韓国、インドネシア、ミャンマーに行ってきましたが、フィリピンはちょっと他の東南アジアの国と違います。

まずストリートチルドレンがいます。バスに乗って移動しましたが、急にドンドンと音がして、何かと思うとストリートチルドレンがバスをたたいて、金をくれとアピールしていました。それだけではなく、10歳くらいの女の子が裸足でバスに寄ってきて、お金をくれと手を出して来たりします。あまり他のアジアの国では見られない光景です。

それに加え、銃を持ったガードマンがたくさんいます。銀行の入り口では必ず検問があります。かばんの中身を簡単にですが、調べます。銀行の中には、必ず2、3人の銃を持ったガードマンがいます。高速道路の料金所にもショットガンを持ったガードマンが立っています。要は現金を扱う場所では必ず銃を持ったガードマンがいるわけです。検問はあちこちであり、ホテルの入り口、ショッピングモールの入り口でも行っています。

現地のガイドさんからは、余り外を歩かな

いように言われたため、今回の旅行では街中を散策することができませんでした。両替所で円をペソに換えたのですが、「両替所の外でお金を見せないように」、「両替所を出たら、すぐにバスに乗って下さい」など、かなりの警戒度でした。

フィリピンはアメリカの統治下にあったため、銃社会になってしまったところが、他のアジア諸国と違うところです。

警察も当てになりません。私たちが滞在中に警察官(それもかなりの役職者も含みます、が数名で現金輸送車を襲撃し、恐喝するという事件がありました。大きく言えばマニラ(東京都のような感覚です)の中のケソンと言う地域で起きた事件で、とても日本では考えられないことです。このような状況ですから治安がよくなるはずはありません。

宗教

フィリピンはずっとスペインの統治下にあり、その後アメリカが1898年より1946年まで支配しました。その関係で、人口の約9割がキリスト教徒で、ほとんどがカトリックです。カトリックの影響が強いためか、フィリピンでは離婚できません。ただ、死別すれば再婚は可能です。離婚も全く不可能ではありませんが、多額の裁判費用が必要となり、一般庶民にはとてもできません。

フィリピンでも交通渋滞

フィリピンでも激しい渋滞が発生しています。日本以外のアジアの国では鉄道網が整備されることなく車社会となってしまったため、どこでも交通渋滞が発生しています。そこはアジアの他の国と同じでした。

フィリピンに行ってみて感じたのは日本の「安全」でした。東南アジアの国の中でも、いろいろ違いがあることを実感した視察旅行でもありました。

以上